

雷と送電線



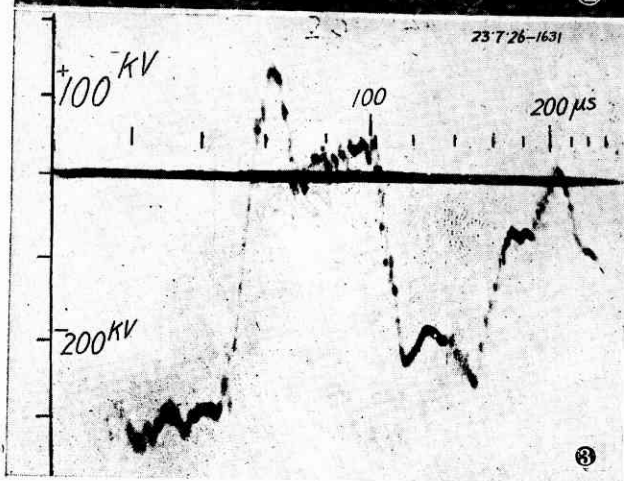
解説：藤 高 周 平



①低速度回轉寫眞機（ボイスカメラ）による多重雷の撮影例：放電數 11 回に及ぶ

（學振雷災防止委員會東芝班撮影）—本文 6 頁參照—

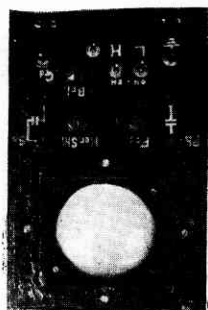
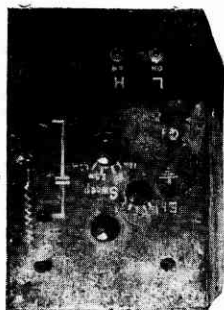
②雷の直撃をうけた農家：雷は天井から柱，タンスを通つて大地へ逃げた。タンスは破壊，柱は損傷したが，人畜の被害はなかつた。このような地勢にある一軒家では雷雨の中柱によりかかっていると危い。



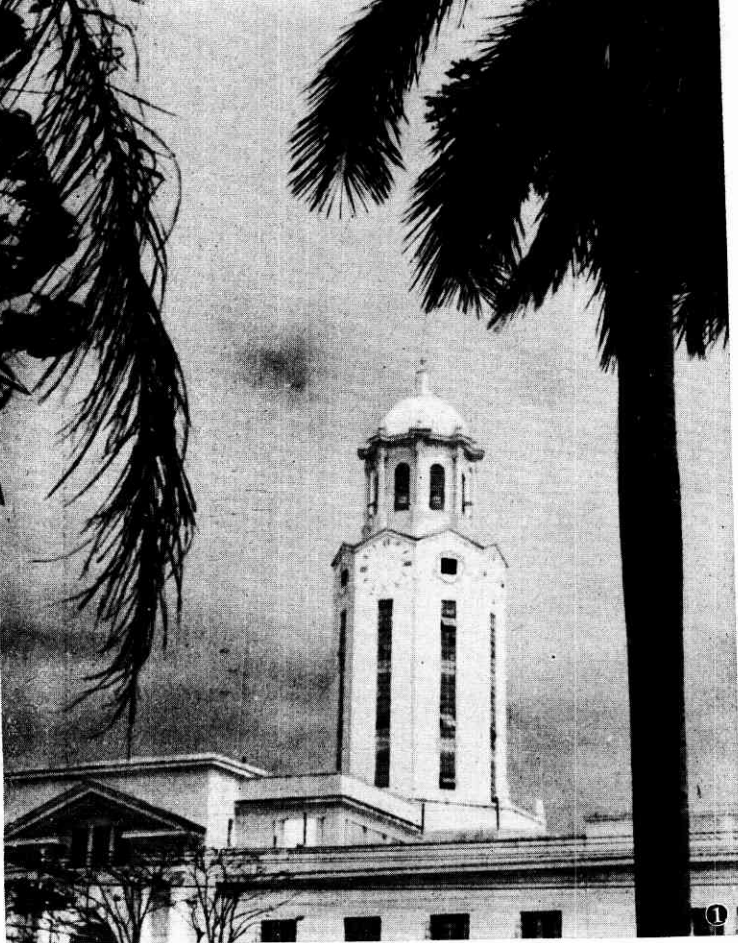
③送電線を傳つて變電所きた雷電壓の波形。本文記述の通り閃絡點の位置を判定するのに役立つ有意義な記録である。最初の部分は記録されていないが，負電壓で 30 萬ボルトを超過している。

（昭和 23 年 7 月 26 日 16 時 31 分茨城變電所）

④送電線閃絡點標定器（生研・藤高研究室試作品）

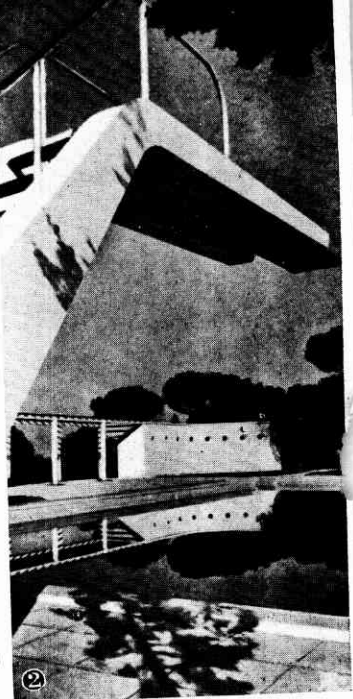


④



①高塔 夕景の美をもつて知られたマニラ灣を一望の下に眺める高塔は、大地の熱氣をさけて、大空をただようそよ風をうけ、地上の樂園をなしている。

②③プールとバーゴラ
 どんな強烈な日照りでも、一寸ひと浴びすれば涼味満點、さらに浴後のひとときをバーゴラの下で過すのもよい。住宅とまではゆかなくとも、公共施設にはこの位の設備はほしいものである。(イタリヤ)

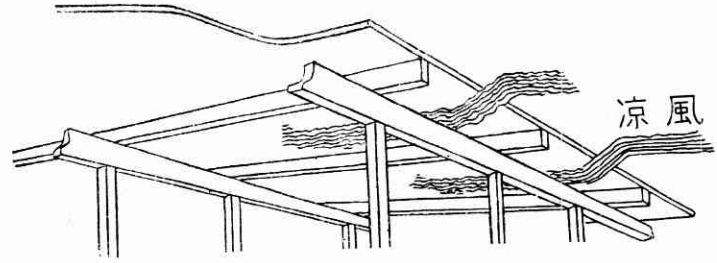


夏と建築

解説：星野昌一



⑥



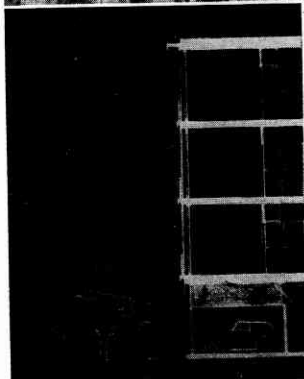
⑦

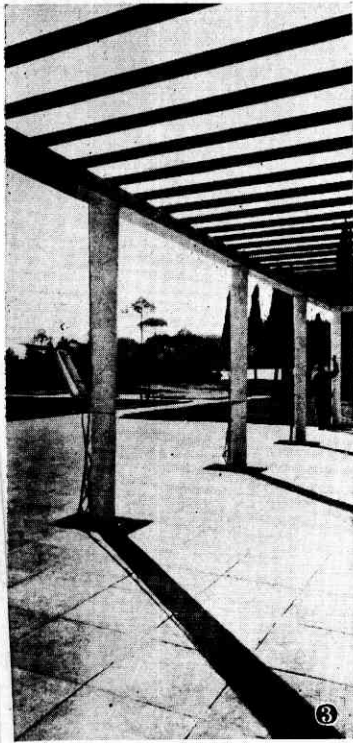
⑥⑦庇と開口

思いきつて広くとられた開口部と深く突き出た庇は、夏の暑さを防ぐにもつとも有効な方法。夜間でも庇の下から冷風が吹き通うように考えられている。ノイトラの設計したカリフォルニアの住宅

⑧⑨バルコニー

南國の強い直射日光をさけるために前面一ぱいに庇を兼ねた張出バルコニーを設けて、吹き抜ける涼風を階段室をはじめ部屋の隅々まで取り入れようとしているイタリヤのアパート。(下は建物の断面圖、一階はガレージと屋下庭園)



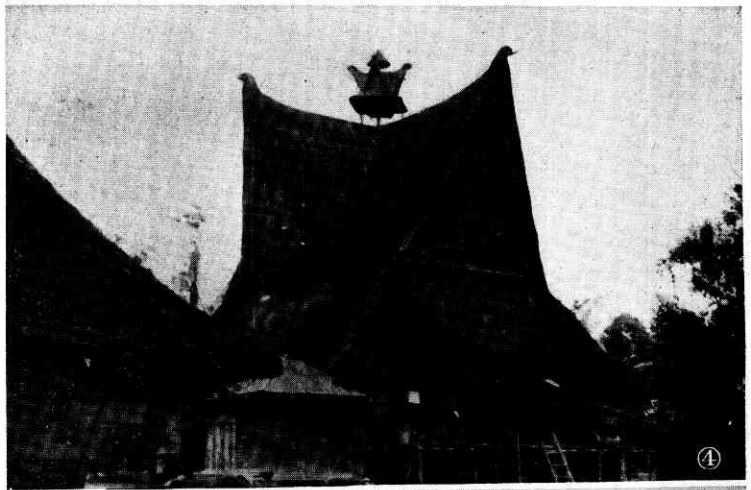


③

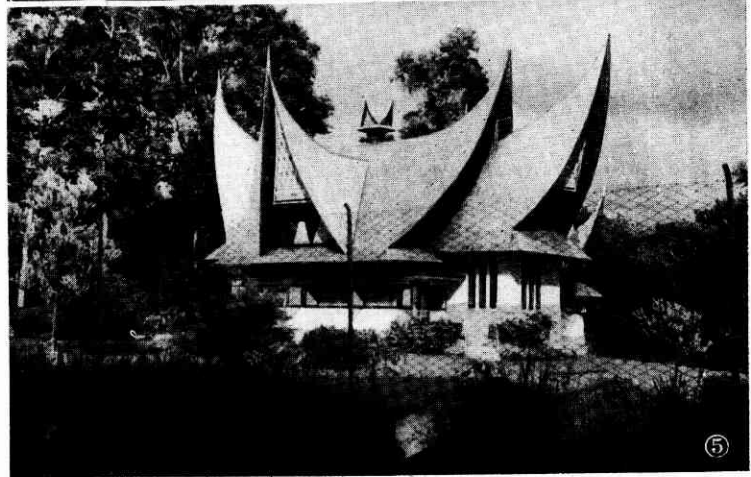
④⑤草屋根
これはまた原始的な方法であるが、真上からふりそそぐ熱帯の強烈な直射日光を遮熱性のすぐれた厚い草屋根で防ぐのはたしかに有効である。(スマトラのバタク族の家、急な勾配屋根で室内はまつくらである) 下圖は同じような外形をもじつてはいるが、材料がちがうために、それほど涼しくないオランダ人の近代住宅。

夏ともなれば、涼を求めて、いろいろ工夫をこらすのが人の世の常であるが、環境科学を實踐化する建築技術はこれをどうとりあつかっているか：

建築からみた防暑対策の世界版。



④



⑤

⑩樹蔭

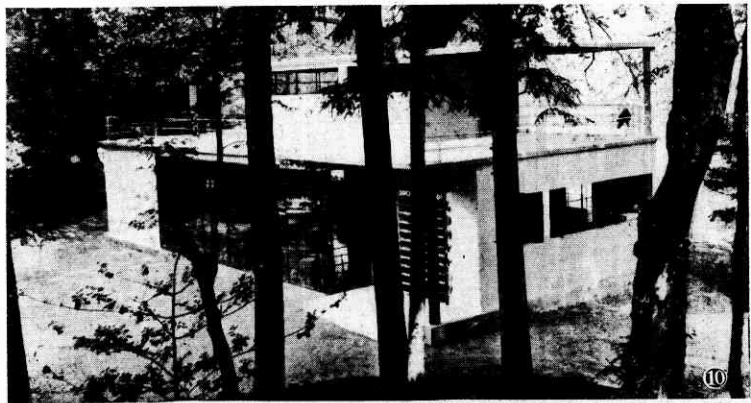
深い翠の樹立につつまれた白壁の住宅は廣い開口部と、吹き放しの屋上庭園をそなえて、眞夏の日中でも涼を楽しむのにふさわしい。(モダンスタイルと自然との調和の例・イタリヤ)

⑪張出床

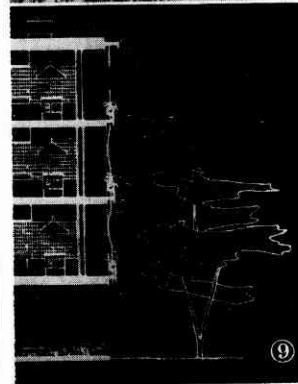
アメリカの最近の傾向は、いちじるしく自然の風物を建築の中にとり入れているが、これは大膽にカンテイレバー・テレスを谷に面した庭園に張出して、日本式の手摺は斜につき出し、よいベンチをかね、機能的な實用性を巧みに意匠の中に入れて



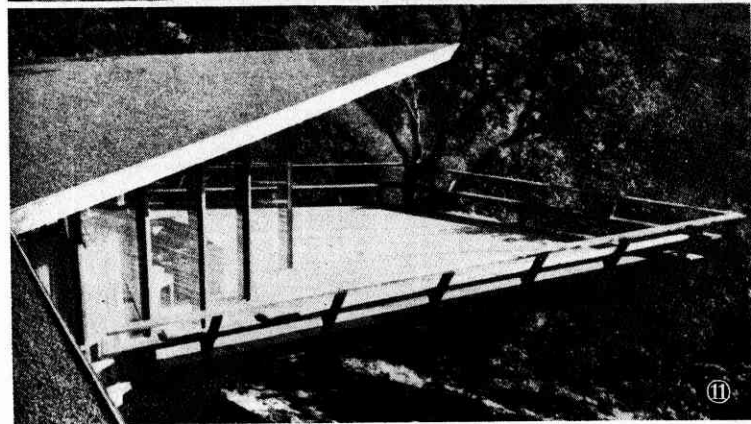
⑧



⑩



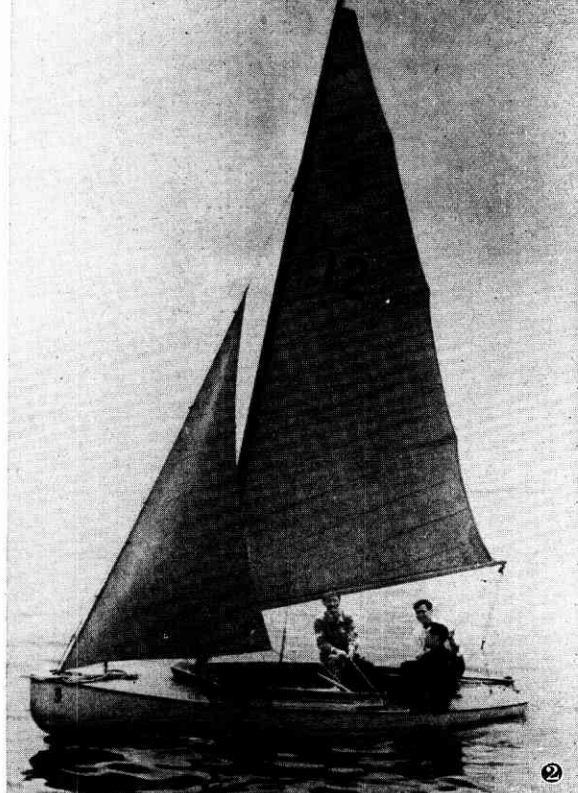
⑨



⑪



① 向い風で帆走中の状態
帆の揚力によつて前進する。横濱港にて。



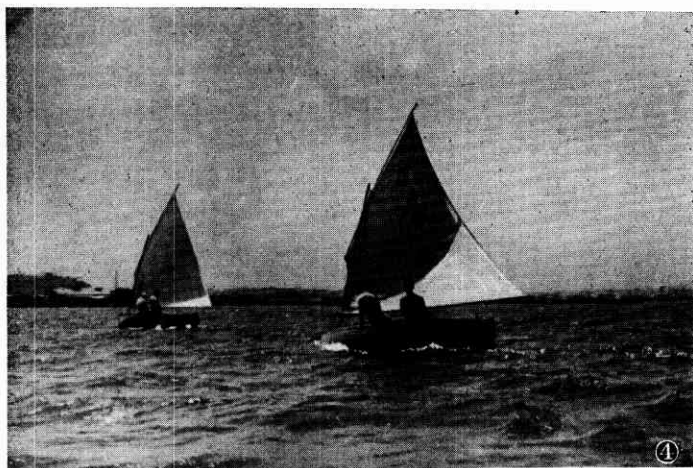
② 前の小さいのが Jib Sail, 大きい方が Main Sail.
帆の後縁にしわがよるのを防ぐため三ヶ所にバツテン
が入れてある。

ヨット

解 説
安藤 良夫

③ 効率を落さないために Main Sail.
の一端はマストにはめこむ。たつのお
としごをつけたヨットはシーホース型

④ これはディン
ギーという型。
傾斜を少なくす
るため艇員は
できるだけ舷
外に身體をの
りだす。



⑤ 建造中の特殊
な高速ヨット。
長さ 5 m で艇
體重量わずか
130kg の豫定。

